

第1回 学校運営協議会 学校評価部会 議事録

メンバー：学校運営協議会委員 磯崎 淳子 様、宇佐美 英司様、高橋 章二様、
山崎 香織 様

本校教職員 高垣 裕一、中村 美鈴、國米 孝志

◎高橋 章二委員

- ・会議の持ち方を再考する必要がある。学校側からの報告に時間が費やされ、熟議の時間が短かすぎる。事前に資料を配付して読んでもらうようにするとよい。
- ・年3回の学校運営協議会だけでなく、途中の情報発信もするべきである。議事録も HP だけでなく、送付するとよい。
- ・教員の専門性の向上について、第2回の学校運営協議会での短時間の参観だけではなく、日常の授業公開を、学校評価部会の委員の立場で参観したい。
- ・学校自己評価アンケートの分析について、「あてはまる」と「ややあてはまる」を「高評価」として分析しているが、「ややあてはまる」の数が多い。「やや」に込められた意味合いの分析が必要ではないか。

◎磯崎 淳子委員

- ・会議の方法として、順番に指名されて意見を言う形式は、話し合いや熟議とはならない。
- ・高等部に知り合いの子どもが入学している。学校見学をして「ここがいい」と決めた。

◎宇佐美 英司委員

- ・学校運営協議会の位置づけがはっきりしない。
- ・学校経営目標について、「自立と社会参加」を掲げているが、卒業後受け入れられる場に行くためにどう地域と関わっていくかが大切。地域と関わる行事に参加することが、ただアドバランをあげたいというだけになっていないか？温度差があるのではないか？整理が必要ではないか？

◎高橋 章二委員

- ・一般の学校は、地域と学校が課題を共有しやすいが、特別支援学校は学区が広く課題の共有が難しい。
- ・今日の「学校運営協議会」の説明は一般的でわかりにくい。南支援学校の学校運営協議会が何を目指しているのか？
- ・交流及び共同学習で「コミュニケーションの力が伸びた」という説明があったが、年数回の交流でとれだけ伸びるのか？何をもって「伸びた」と評価するのか？

◎山崎 香織委員

- ・昨年度から委員となり、地域との関わりや学校の実情がよくわかった。
- ・保護者として感じていること。高等部になり、年齢が上がるにつれて、現場実習等で実態の差を感じる。実態差のある児童生徒一人一人にあった教育は難しいだろうと思う。

◎宇佐美 英司委員

- ・学校経営目標について、GIGA の取組の功罪についての検証が必要では？ | 人 | 台端末の活用はできているか？
- ・小学部技能検定の取組はよいと思うが、中・高も同様の内容の取組をしているか？

⇒國米教頭

- ・検定ではないが、項目を日常生活の指導の指標として取り扱っている。